ReaLine®

リアライン コア
ReaLine CORE

ＳＰ－ＲＣ０１

取 扱 説 明 書

性能を十分発揮し、安全にお使いいただくため、
この「取扱説明書」を必ずお読みください。
本書は再読できるように必ず保管してください。

株式会社 ＧＬＡＢ

リアライン コアをお買い上げ頂き、ありがとうございます。
次の事項に注意してお使いください。

１．温度１０～４０℃の場所で使用してください。
２．湿度が高くならない場所で使用してください。
３．修理・調整は弊社にお申しつけください。
４．使用上の「危険」「警告」「注意」事項は特にご留意願います。
５．本書の記載内容以外の使用や操作は、絶対にしないで下さい。
６．痛みや治療の必要がある方が本製品をご使用になる場合、その使用方法については医療機関の指導に従って実施してください。

目　　次

正しく使用していただくための注意事項 1

免責事項

１．主な仕様、使用目的・効能 4

１－１　主な仕様 4

１－２　使用目的・作用・使用例 4

１－３　期待される効果 6

１－４　各部の名称とはたらき 8

２．使用準備 9

２－１　ベルトの長さの調整 9

２－２　ベルトが抜けた時の対処法 10

２－３　骨盤への装着手順 11

２－４　胸郭への装着手順 13

２－５　胸郭ユニット、骨盤ユニット装着時 14

２－６　使用終了時 14

３．使用方法 15

３－１　使用手順 15

３－２　使用を中止または終了する場合 16

４．　故障と思われる前に 17

５．　清掃方法 17

６．　点検事項 18

６－１．日常点検 18

６－２．定期点検 18

６－３．定期保守点検 18

７．　保管・輸送 19

８．　異常時の処置 19

９．　その他の注意 19

１０．付属品及び交換部品一覧表 20

１０－１．　付属品一覧表 20

１０－２．　交換部品一覧表 20

１０－３．　本体保障　20

正しく使用していただくための注意事項

ここでは機器を正しく使用していただくための注意事項を、想定される人身への傷害、財産への損害の程度により「危険」「警告」「注意」の３段階に分けて示しています。内容をよく理解してから機器を正しく使用してください。

危険

取扱いを誤った場合、重篤な傷害や死亡につながる危険性が極めて高い事柄を示します。

○本機は**骨盤と胸郭に装着し姿勢矯正下での筋肉運動を行うための運動補助器具**です。他の目的には使用しないでください。
○弊社の係員以外が本機を修理または再調整して発生した事故及び故障に関しては、無断で修理をした人の責任となりますので絶対にしないでください。
○本機の分解、改造はしないでください。
○禁忌・禁止事項

次のような人は使用しないでください。

(1) 急性の肝機能障害の人、ウイルス性肝炎の活動期である人。
(2) 骨粗鬆症または 60 歳以上の人。
(3) 糖尿病があり、重篤な合併症(網膜症、腎症)がある人。
(4) その他、医師が不適当とみなした人。

次のような人は専門の医師の判断を必要とします。

(1) 幼児または意思表示できない人
(2) 妊婦
(3) 腰痛や骨盤痛を有する人。
(4) 鼠径部または下肢の血行障害、リンパ節の異常、神経障害がある人。
(5) 心臓疾患のある人。
(6) 骨盤・脊柱・胸郭への手術歴や腫瘍。
(7) 最近心臓発作または脳卒中の発作を起こした人
(8) 出産直後の女性など骨盤周囲や体幹部に何らかの不安がある人。

※リアライン・コアは不快感や疼痛が全く生じない状態で使用することが原則です。着用・使用により何らかの不快感が生じる場合は直ちに本機を取り外し、使用を中止してください。

警告

取扱いを誤った場合、重篤な傷害や死亡につながる危険性が想定される事柄を示します。

○使用される方は、必ず本機の特性を理解し、正しい使用方法で使用し、注意事項を守ってください。適切な使用がおこなわれないと、使用者の身体に重大な障害を起す可能性があります。
○使用される方は、本書の点検事項を参照して、日常点検、定期点検をおこなってください。
○取扱説明書に記載の用途・用法以外での使用はしないでください。
○幼児などが触れないように、注意してください。
○本機の分解、改造はしないでください。

注意

取扱いを誤った場合、人が傷害を負う可能性が想定される事柄および物的損害のみの発生が想定される事柄を示します。

○本機を保管するときは、以下の事項に注意してください。

- 環境条件（周囲温度 10～40℃、相対湿度 30～75%、気圧 700～1060hPa）を満たし、周囲が安全である事を確認してください。
- 水がかかったり濡れたりする場所で保管しないでください。
- 強力な磁力線、X線、気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分を含んだ空気等により悪影響が生ずる恐れのない場所で保管してください。
- 傾斜や振動のある不安定な場所で保管しないでください。
- 衝撃（搬送時を含む）のかかる場所で保管しないでください。
- 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないでください。
- 温度の高くなる機器の近くで保管するときは十分な距離（3m 以上）を保ってください。

○本機を使用するときは、以下の事項に注意してください。

- 取扱説明書に記載の用途・用法以外での使用はしないでください。
- 医療機関に通院中の方、骨粗鬆症の方、60 歳以上の方は必ず医師の指導の下で本機を使用してください。
- 痛み、不快感、痺れ、感覚鈍麻・過敏、血行障害、血圧上昇、不整脈を含め何らかの身体的な異常が生じた場合は、直ちに本機の着用・使用を中止し、医師にご相談ください。
- 股関節の血管・神経を圧迫する恐れがあるため、健康な方、治療中の方を問わず本機の**連続 10 分間以上**、**1 日 30 分以上**使用することを禁止します。
- ラチェット操作による圧迫の強さは痛みや不快感が生じない範囲としてください。
- 血圧など健康状態をチェックし、支障のないことを確認した上で使用してください。
- 原則としてポケットを空にした運動服を着用し、本機と身体との間にはベルト、ボタンなど衣服以外の物が介在しないようにしてください。
- 使用中は、本機にカバーなどをかけないでください。
- ラチェット部分のベルト接続が正確でかつ完全である事を確認してください。
- 取扱説明書の点検事項を参照して、機器が正常に作動する事を確認してください。
- 取扱説明書に定められた用途・用法以外での使用はしないでください。
- 正しい姿勢・呼吸法でトレーニングしてください。
- ゆっくり一定のテンポでトレーニングしてください。
- 本機に衝撃を与えるような使い方はしないでください。
- 急速な運動はしないでください。
- 医療機関やトレーニング施設での使用中は、装置全般および使用者に異常のないことを絶えず監視してください。

○その他の注意事項

- 本体を分解して内部の部品に手を触れたりしないでください。
- 付属品、オプション品、交換部品は、必ず本機の「取扱説明書」で指定しているものを使用してください。また、本機の付属品、オプション品、交換部品を他の機器に流用しないでください。
- 表示、ラベル等がはがれたり、読めなくなった時は、交換が必要です。弊社までご連絡ください。
- 故障のときは、取扱店またはメーカーの修理が完了するまでは機器を使用しないでください。
- お買い求めの販売店または弊社の係員以外が本機を修理または再調整して発生した事故および故障に関しては、無断で修理した人の責任になりますので、絶対にしないでください。
- 機器や患者に異常があった場合、患者にとって安全な状態で、直ちに機器を取り外し、適切な処理を行ってください。

免責事項

・メーカーおよび発売元はリアライン・コアの効能・効果について保証出来かねます。

・メーカーおよび発売元は、上記の使用上の注意点から逸脱した使用法によって生じたあらゆる損害について責任を負いかねます。

１．主な仕様、使用目的・効能

１-１．　主な仕様

〇寸法、及び重量（骨盤ユニット、胸郭ユニット共通）

外形寸法（フロントフレーム）幅 349.7 ㎜ × 奥行 81.5 ㎜ × 高さ 142.8 ㎜
外形寸法（バックフレーム）幅 207.4 ㎜ × 奥行 32.8 ㎜ × 高さ 133.4 ㎜
重量　　約 1.5 ㎏

〇環境条件

周囲温度	10-40℃
相対温度	30-75%（結露しないこと）
気圧	700-1060 hPa

〇性能

ラチェット操作によるベルト張力　　約 300 N 以上

１－２．　使用目的・作用・使用例

リアライン・コアは**骨盤と胸郭に装着し姿勢矯正下での筋肉運動を行うための運動補助器具**です。

【骨盤での使用（骨盤ユニット）】

(1) 使用目的

① 骨盤ユニットは、骨盤の対称性が得られた状態において骨盤・股関節・体幹部の筋を再教育・強化することを目的として使用されます。

(2) 運動学的作用

寛骨の前・後傾偏位が消失し、寛骨アライメントが左右対称になると、フロントパッドの圧が左右均等に加わり、それ以上の矯正力は加わりません。

① ラチェット操作によるベルトの張力によって、フロントフレームとバックフレームの間に挟まれる骨盤を前後より圧迫します。

② フロントフレームは上後腸骨棘を後方に押し込む作用を持ち、上後腸骨棘が前方に位置している前傾位にある寛骨を後傾させます。

③ バックフレームは寛骨の後部（上後腸骨棘）を外側から内側に挟み込む作用を持ち、両仙腸関節を圧迫します、仙腸関節面どうしを接近させることにより、鞍関節の特徴を有する仙腸関節の構造を利用して仙骨を徐々に適合性の高い位置（前額面で正中位、矢状面で前傾位）に誘導します。

④ 骨盤ユニットの着用が骨盤輪を理想的なアライメントに誘導することが期待されます。

⑤ 個人差によって骨盤の対称性が得られにくい場合があります。

(3) トレーニングにおける使い方

① 股関節の分離運動の促進：骨盤を強固に固定することにより、骨盤内の動きを伴わずに筋機能トレーニングを実施することができ、いわゆる股関節の分離運動が促進されます。具体例として、リアライン・コアを装着した状態でのスクワット、ランジ、サイドラン

ジ、ジャンプなどの荷重位でのエクササイズが挙げられます。

② 骨盤の回旋動作の向上：野球の投球やバッティング、ゴルフスイングなど骨盤の回旋筋の強化とともに、回旋動作のスキル向上に役立ちます。具体例として、リアライン・コアを装着した状態でのゴルフ反復スイング、バッティング素振りなどが挙げられます。

③ 股関節の可動域拡大：骨盤を強固に固定することにより、骨盤内の動きを伴わずに股関節のみのストレッチを行うことができます。特に代償運動が起こりやすい腸腰筋やハムストリングスのストレッチに有効です。

④ 体幹の安定性向上トレーニング：骨盤を強固に固定することにより、理想的な骨盤の安定性が得られた条件下での体幹筋の強化を行うことができます。具体例として、リアライン・コアを装着した状態でのバランスボールを使ったコアトレーニング、ケーブルマシンを使ったファンクショナルトレーニングなどが挙げられます。

※ どのようなトレーニングに用いる場合であっても、不快感のない状態で実施してください。また、連続で 10 分間以上続けてリアライン・コアを装着することは絶対に行わないでください。鼠径部の血管、リンパ、神経の圧迫によって重篤な疾患・症状を招く危険性があります。

【胸郭での使用（胸郭ユニット）】

(1) 使用目的

① 胸郭ユニットは、下位胸郭の側方への拡張とともに上位胸郭の挙上を促し、左右対称な胸郭運動パターンを再学習させることを目標として使用されます。

(2) 運動学的作用

① ラチェット操作によって下位胸郭を前後からパッドで挟むことにより左右対称に圧縮する（前後径を減少させ、横径を拡張させる）ような作用を発揮します。着用して呼吸、後屈、回旋といった胸椎運動を行うことにより、上位胸郭は挙上（バケツ柄運動）、下位胸郭は拡張（キャリパー運動）という理想の胸郭運動を獲得させます。

② フロントフレームは下位胸郭のキャリパー運動を促すよう、後外側に傾斜しています。下位胸椎の回旋や腹筋群の緊張の左右差などによって下位胸郭の拡張に左右差がある場合も、フロントフレームの圧迫によって徐々にその対称性が獲得されます。初めて着用した際には呼気が妨げられるような抵抗を感じますが、徐々に深い呼気を得るように胸郭運動を繰り返すうちに、上位胸郭挙上に同期した下位胸郭拡張の可動性が増大し、楽に呼気ができるようになります。

③ バックフレームは下位胸椎部において脊柱起立筋と胸郭後部を正中に向けて圧迫し、全面における下位胸郭の拡張を促します。

④ 左右対称な下位胸郭拡張運動が促されている状態でトレーニングを行うことにより、理想的な胸郭運動を促すような胸郭のローカル・スタビライザーの再教育が効率的に進められます。

⑤ 個人差によって胸郭の対称性、理想の運動パターンと筋活動が得られにくい場合があります。

⑶ トレーニングにおける使い方

① 上肢運動における胸郭可動性の向上：投球や水泳など広い肩関節の可動域を必要とするスポーツにおいて、肩甲骨および胸郭の可動性拡大が求められます。下位胸郭を胸郭ユニットで圧迫し、理想の胸郭運動を獲得しつつ上肢のオーバーヘッドポジションでのトレーニングを行うことにより、オーバーヘッド肢位における上位胸郭の挙上、下位胸郭の拡張が促されます。具体例として、リアライン・コアを装着した状態でのバックプレス、プルダウントレーニングなどが挙げられます。

② 脊柱・胸郭の伸展可動域拡大：器械体操、新体操、クラシックバレエ、野球のピッチングなど脊柱の広い可動域が必要な種目において、理想の胸郭運動パターンを獲得しつつ体幹の後屈動作およびその可動域改善を図ることができます。具体例として、リアライン・コアを装着した状態での後屈、ブリッジ、ゆっくりとした投球動作などが挙げられます。

③ 胸椎回旋トレーニング：下位胸郭を固定した状態で体幹の回旋運動を促すことによって、効率的に腹斜筋や胸椎部多裂筋のトレーニングを行うことができます。具体的には、リアライン・コアを装着した状態での、片膝立ち肢位でのケーブルを用いたファンクショナルトレーニングなどが挙げられます。

※ どのようなトレーニングに用いる場合であっても、不快感のない状態で実施してください。また、連続で 10 分間以上続けてリアライン・コアを装着することは絶対に行わないでください。下位胸郭への過度の圧迫によって肋骨骨折などの疾患・症状を招く危険性があります。

１－３．　期待される効果

⑴ ランニング姿勢の改善

① 対象者：　　陸上選手など
② エクササイズ：　胸郭ユニットを着用して深呼吸や腕振りエクササイズを実施。
③ 効果発現機序：　下位胸郭の拡張が促されることによって、上位胸郭の挙上および胸椎伸展が得られ、全体として胸郭アライメントが改善することが期待される。
④ 禁忌・禁止事項：10 分間以上の連続使用、1 日 30 分以上の使用

⑵ オーバーヘッド動作における肩甲胸郭運動の改善

① 対象者：　　野球、水泳など
② エクササイズ：　胸郭ユニットを着用して、深呼吸や上肢挙上、ゆっくりとしたオーバーヘッド動作を実施。
③ 効果発現機序：　下位胸郭の拡張が促されることによって、上位胸郭の挙上および胸椎伸展が得られる。その状況下で肩関節運動を行うことにより、理想的な胸郭アライメントにおける肩甲胸郭運動の獲得を促す。
④ 禁忌・禁止事項：10 分間以上の連続使用、1 日 30 分以上の使用

⑶ ランニング中の股関節運動の改善

① 対象者：　　陸上選手など
② エクササイズ：　骨盤ユニットを着用して、足踏み、スクワット、ランジ、クイックランジ、その他股関節分離を意図したエクササイズ。
③ 効果発現機序：　骨盤の良好なアライメントで固定されているため、骨盤周囲の不必要

な筋緊張（特に二関節筋）が低下する。その状態で、股関節の分離を意識したエクササイズを行うことにより、通常よりも軽く、円滑な股関節運動を反復することができる。

④ 禁忌・禁止事項： 10 分間以上の連続使用、1 日 30 分以上の使用

(4) 回旋動作の改善

① 対象者： 陸上投擲、ゴルフ、野球、テニス、スキー、スケートなど

② エクササイズ： 骨盤ユニットを着用して、骨盤回旋エクササイズ、ケーブルを用いたファンクショナルトレーニングなど。

③ 効果発現機序： 骨盤の良好なアライメントで固定されているため、骨盤周囲の不必要な筋緊張（特に二関節筋）が低下する。その状態で、骨盤回旋を繰り返すことにより、股関節内旋筋・外旋筋の効率的な活動パターンの習得を促す。

④ 禁忌・禁止事項： 10 分間以上の連続使用、1 日 30 分以上の使用

(5) ジャンプ動作の改善

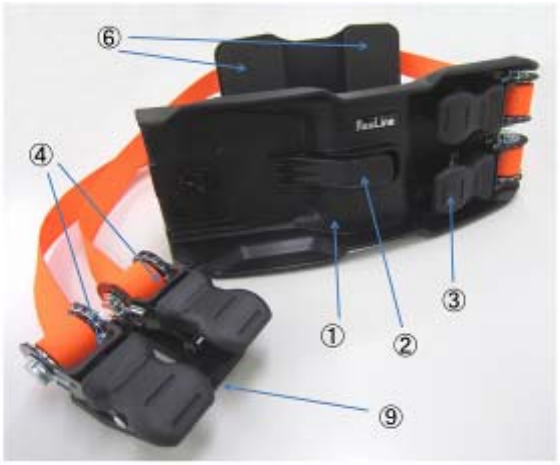
① 対象者： バレーボール、跳躍、スキー、スケートなど

② エクササイズ： 骨盤ユニットを着用して、スクワット、ランジ、クイックランジ、ジャンプトレーニングなど。

③ 効果発現機序： 骨盤の良好なアライメントで固定されているため、骨盤周囲の不必要な筋緊張（特に二関節筋）が低下する。その状態で、ジャンプにつながるエクササイズを実施することにより、股関節の分離運動を向上させる。

④ 禁忌・禁止事項： 10 分間以上の連続使用、1 日 30 分以上の使用

１－４．　各部の名称とはたらき



①	フロントフレーム	本体の前面部分です。
②	着脱レバー	固定部分を解除するためのレバーです。
③	ラチェット	ベルトの張力を強めるために使用します。
④	トリガー	ベルトの長さを調整するために使用する部分です。
⑤	フロントパッド／前面部分	上前腸骨棘・下位胸郭に当てる部分です。
⑥	バックパッド／後面部分	上後腸骨棘・脊柱起立筋と胸郭後部に当てる部分です。
⑦	ベルト	体に巻くベルトです。
⑧	バックフレーム	本体の後面部分です。
⑨	着脱プレート	フロントフレームに固定する部分です。

２．使用準備

２－１．　ベルトの長さの調整

① 親指でトリガーを押しつつ、ラチェットを完全に 180 度反転させます。

② 必要に応じてベルトを引きだします。

③ トリガーを引きつつラチェットを元の状態に戻します。

④ 上の①～③の手順を 4 つのラチェットについて実施し、骨盤または胸郭に装着しやすい長さに調節してください。

２－２．ベルトが抜けた時の対処法

① ベルトがラチェットから抜けた場合、ご自身でベルトをラチェットに装着していただきます。
まず、ラチェットの穴を真横に向けます。

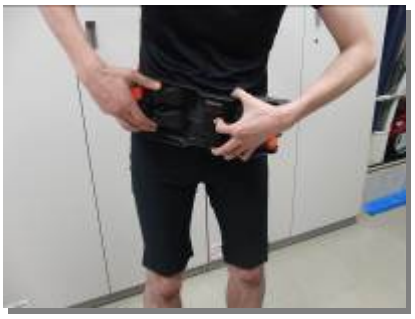
② ベルトをラチェットの軸の穴に通し、ベルトの端を折り曲げて 2 ㎝ほどベルトを重ね、それを指で押さえます。

③ ラチェットを操作してベルトを適度に巻き取ります。

２－３．　骨盤への装着手順

① ベルトの長さを適度な状態に調整します。
② フロントフレームを左手で、着脱プレートを右手で持ちます。フロントフレーム前面中央のレバーを押してロックを解除し、着脱プレートを取り外します。

③ ベルトをまたぎ、バックフレームを骨盤背面に密着させます。
④ 着脱プレートをフロントフレームにロックします。このときカチッと音がして確実にロックされていることを確認します。



⑤ リアライン・コアが高すぎる場合、上側を手前に押し付けると写真のように傾斜が著明となります。**（重要：ReaLine のロゴを上前腸骨棘の高さと一致させてください。）**
⑥ 左右のフロントパッドの上側のベルトの中央を上前腸骨棘の高さに一致させます。

⑦ バックパッドが左右の上後腸骨棘に密着していることを確認します。

⑧ 左右のラチェットをバランスよく巻き込みます。ベルトの締め過ぎにご注意ください。

注意

装着してラチェットを巻き込む際は、必ず着脱プレートがロック状態にあることを確認してください。

２－４．　胸郭への装着手順

胸郭ユニットについても同様の方法で下位胸郭に装着します

① フロントフレームを左手で、着脱プレートを右手で持ちます。
② フロントフレーム前面中央のレバーを押して、ロックを解除し、着脱プレートを取り外します。

③ ベルトをまたぎ、バックフレームを胸郭背面に密着させます。
④ 着脱プレートをフロントフレームにロックします。このときカチッと音がして確実にロックされていることを確認します。

⑤ バックフレームを胸郭の背面中央に密着させます。
⑥ 左右のフロントフレームの上端部分を胸骨下端の高さに一致させます。

⑦ 左右のラチェットをバランスよく巻き込みます。ベルトの締め過ぎにご注意ください。

注意
装着してラチェットを巻き込む際は、必ず着脱プレートがロック状態にあることを確認してください。

２－５．　胸郭ユニット、骨盤ユニット装着時

２－６．　使用終了時

着脱レバーを押し、着脱プレートをスライドさせます。

注意
緊急性を要する場合、着脱レバーを押して直ちに取り外してください。

３．使用方法

３－１．　使用手順

以下の手順で操作をおこない、詳細は指定のページの項目を参照してください。

確認

① 4 個のラチェットをゆっくりと交互に操作し、どこにも疼痛や不快感が生じない範囲で、徐々にベルトの張力を強くしてください。
② エクササイズを実施するとベルトが多少弛んでくるので、1−2 分ごとに 4 本のベルトの緊張をバランスよく強めてください。

ステップ 1：リアライン

① 深呼吸：胸郭運動を改善します。上位胸郭の挙上と下位胸郭拡張を連動させた呼吸パターンが得られてくると、胸郭ユニット装着下でも呼吸運動が妨げられる感覚が消失します。
② 足踏み：骨盤の対称性を向上させるため、足踏みを 1 分間程度繰り返します。
③ 胸郭可動域改善：深呼吸、前後屈、回旋、上肢挙上運動などを行ってください。これらのエクササイズを 2〜3 分間程度行うと徐々にベルトが弛んでくるので、再度ラチェットを操作して均等にベルトに張力を加えてください。
④ この過程を 5 分間ほど実施すると、骨盤と胸郭のリアラインが徐々に得られてきます。

ステップ 2：スタビライズ

① 呼吸法：腹横筋上部を呼吸筋として、腹横筋下部を骨盤安定化筋として使い分けるように呼吸法を意識します。
② ケーブルトレーニング、プランクトレーニングなどを行ってください。いずれも良姿勢を保つことが原則であり、良姿勢を保持できない場合は負荷を軽減させる必要があります。
③ スクワット、ランジなどの荷重位でのエクササイズは、下肢のスタビライズ・トレーニングとしても有効であるとともに、下肢の運動をサポートするコア・スタビリティの向上をもたらすことが期待されます。熟練者においては、バーベルやダンベルを用いることも可能です。
④ リアライン・コアとバランスシューズ膝関節用を装着してスクワット等のトレーニングを行うと、下肢から骨盤を同時にスタビライズすることが可能となります。

※なお、リアライン・コアが床に触れるようなトレーニングは禁止します。

ステップ 3：コーディネート

① リアライン・コア装着下では、比較的ゆっくりとしたコーディネートトレーニングから進めることをご推奨します。歩行では、左右対称な股関節伸展による大殿筋活動の対称化、左右対称な腕振りによる胸郭回旋の対称化、腹横筋下部の持続緊張などを学習します。
② スイング動作（ゴルフ、野球、テニスなど）では、最初はゆっくりと動作を行って胸郭に不快感などが生じないことを確認します。滑らかな運動が確認されたら、徐々に動作のスピードを速めても良いが、それでも全力の 50%以下に抑えてください。特に回旋動作では、左右の回旋（バックスイングとフォワードスイング）において、胸椎が対称に回旋することを確認することが大切です。

③ 種々のスポーツ動作において、リアライン・コアは骨盤安定化と胸郭可動性の最適化を助ける可能性があります。いずれの場合も、必ずゆっくりとリアライン・コアが邪魔に感じられなくなるまで体を十分に馴染ませることが重要です。

３－２.　使用を中止または終了する場合

① 必ず胸郭ユニットを先に外してください。
② フロントフレームを手で支えてください。
③ 着脱レバーを押すことにより、ラチェットが右方向にスライドし、ベルトの緊張が弛みます。

４．　故障と思われる前に

このような場合	考えられる原因	対　応　策
ラチェットを使ってもベルトが締まらない。	正しくロックされていますか。	カチッと音が鳴るように着脱プレートをフロントフレームに装着してください。
ベルトの長さが足りない。	一方向のラチェット部分にベルトがまとまっていませんか。	使用準備：①～③の手順で、ベルトが左右均等になるよう調整してください。
ベルト張力調整後、ラチェットが元の状態に戻らない	トリガーを押す必要があります。	トリガーを押しながら元の状態に戻してください。

注意

○上記の対応で直らない場合は、お買い求めの販売店へご連絡ください。

○弊社の係員以外が本機を修理または再調整をして発生した事故、及び故障に関しては、無断で修理した人の責任になります。

５．　清掃方法

本体及びベルトの汚れは柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤に浸した布をよくしぼって拭き取ってください。
（シンナー等の溶剤を用いると塗装がはがれたり、樹脂が変色します。）

６．　点検事項

本機を安全に常に正しく作動させるために、下記の保守点検を実施してください。保守点検には日常点検（使用前点検）、定期点検（1 ヶ月毎）、定期保守点検（1 年毎）がありますので、推奨期間毎に点検を行ってください。
なお、使用者自ら定期保守点検ができない場合は、弊社が受託することもできます。

〈使用者による保守点検事項〉

６－１．日常点検

次の項目を使用前に点検してください。

機器本体の外観の確認	機器本体の外観に大きな傷や割れがないか確認してください。
ベルトの外観確認	ベルトに傷や割れがないことを確認してください。
ベルトのねじれ･絡みを確認	ベルトのねじれ・絡まっていないことを確認してください。
ベルト固定状態の確認	ラチェット部分にベルトが確実に固定されていることを確認してください。
動作状態の確認	ラチェットを使用し、異常な動作や異音がないことを確認してください。
本体の接続確認	本体前面部分でロックできることを確認してください。
ラチェット部分の確認	ラチェットで締めたベルトを左右均等の長さに戻してください。

６－２．定期点検

次の項目を定期的に（月に一度程度）点検してください。

ゴムパッドの確認	ゴムパッドの表面上に著しい変質や変形が無いことを確認してください。
ネジの確認	ネジに緩みがないか確認してください。
キズ、サビ破れの有無	目視により安全と性能に支障がないことを確認してください。

６－３．定期保守点検

定期保守点検をおこなう場合は、お買い求めの販売店にご連絡ください。

７．　保管・輸送

〇気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分を含んだ空気等により悪影響が生ずる恐れがなく、本機の環境条件（周囲温度－１０～６０℃、相対湿度１０～９５%、気圧７００～１０６０ｈＰａ）を満たす状態で保管、輸送してください。
〇保管、輸送時は水がかかったり濡れたりしないように気をつけてください。
〇傾斜、振動、衝撃（運搬時を含む）等、安定状態に注意して保管、輸送してください。
〇化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないでください。
〇本体の汚れをきれいに取り除いて保管してください。

注意
長期保管後の使用前には点検をおこなってください。点検の依頼や異常を発見したときはお買い求めの販売店へご連絡ください。

８．　異常時の処置

〇異常を発見したときは、直ちに機器の使用を中止してください。
〇異常の状態をお買い求め販売店または裏表紙に記載の最寄りの弊社営業所へ連絡し、修理を依頼してください。

９．　その他の注意

本機を廃棄する場合は、産業廃棄物となります。必ず地方自治体の条例・規則に従い、許可を得た産業廃棄物処理業者に廃棄を依頼してください。

１０．付属品及び交換部品一覧表

１０－１．　付属品一覧表

部品名	部品コード	個数
本体（フロントフレーム）	GLC001	２
本体（バックフレーム）	GLC002	２
ベルト（本体装着済み）	GLC003	４
保証書・取扱説明書	GL1000	１

上記付属品は単品でご注文ができます。（最少注文数は「１」です）
必要になりましたら、品名・コード番号・数量をお買い求めの販売店へご連絡ください。

１０－２．　交換部品一覧表

部品を交換するときは、機種名・部品名を弊社までご連絡ください。

部品名	部品コード	個数
ラチェット	GRC001	１
フロントパッド	GRC002	１
バックパッド	GRC003	１
ベルト	GLC003	１

上記オプション品は単品でご注文ができます。（最少注文数は「１」です）
必要になりましたら、品名・コード番号・数量をお買い求めの販売店へご連絡ください。
保証対象外の場合は有料となります。

１０－３．　本体保証

本体は 2 年間保証となりますので、ご購入日から 2 年以降は有償での修理とさせていただきます。

GLAB　　保　証　書

品　名			
形　名		製造番号	
★ 保証期間	お買い上げ日　　年　　月　　日 本体：2年間　消耗品：6ヶ月		
お客様 ※ご住所	〒(　　) お電話(　　－　　－　　)		
お客様 ※お名前	様		
★ お買い上げ店 住所・店名			

この保証書は、お買い上げの製品が、正常なご使用状態で万一故障した場合の無料修理についてお約束するものです。
なお、保証期間内においても次の場合には有料修理となります。

1. 本保証書のご提示がない場合。
2. 本保証書を当社の承認なく訂正した場合。
3. お客様による輸送、移動時の落下、衝撃等お客様のお取扱いが適正でないために生じた故障、損傷の場合。
4. 天災、人災等の特殊な外部要因に起因する故障、損傷の場合。
5. 本製品に接続している当社指定機器以外の機器に起因する故障、損傷の場合。
6. 当社及び当社が指定するサービス機関以外での改造、修理、調整等に起因する故障、損傷の場合。
7. 本製品の取扱説明書に記載された使用方法、及び使用上の注意事項に反するお取扱いによって生じた故障、損傷の場合。
8. 製品使用上、保管上の消耗品の補充の場合。

●本保証書は日本国内においてのみ有効です。
●本保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。
●保証期間終了後の故障修理は、その都度実費を申し受けます。

発売元　株式会社GLAB
広島県東広島市黒瀬町宗近柳国889-1
TEL. (0823) 36-2468　FAX. (0823) 36-2469

製造元　株式会社ギケン
広島県竹原市忠海宇檜木尾834-2
TEL. (0846) 72-1144　FAX. (0846) 72-1660